

かかったかな？と思ったら・・・  
何よりも早めにかかりつけの  
医療機関を受診しましょう。  
安静・休養・睡眠を十分にとり  
水分補給を忘れずに。

病院・診療所名

お子様のいるご家庭へ  
ヒトメタニューモウイルスって

なあに？



株式会社 タウンズ



監修：しんどう小児科 院長 進藤静生 先生

# 01 ヒトメタニューモウイルスとは??

ヒトメタニューモウイルス (human metapneumovirus: hMPV) は、2001年にオランダで発見されたウイルスです。聞きなれない名前ですが、インフルエンザウイルスやRSウイルスに次いで多い、呼吸器疾患の原因ウイルスのひとつです。

感染すると、発熱や咳、鼻水といった風邪の症状を起こします。ひどくなると気管支炎や肺炎を起こすこともあります。

感染力はとても強く、咳のしぶきを吸い込んだり(飛沫感染)、手指についたウイルスが体に入ることによって(接触感染)、感染します。

流行時期は3月～6月とされており、生後数ヵ月から5歳くらいの乳幼児がかかることが多いですが、大人にも感染します。

小児の呼吸器感染症の5～10%、大人の呼吸器感染症の2～4%は、ヒトメタニューモウイルスが原因と考えられています。とくに乳幼児や高齢者では重症化することもあり、注意が必要です。

# 02 ヒトメタニューモウイルスの症状は?

ヒトメタニューモウイルス感染後の潜伏期間は4～6日間くらいで、はじめは発熱や咳、鼻水など風邪の症状を訴えます。ひどくなると、のどから「ゼイゼイ」、「ヒューヒュー」といった呼吸音が聞かれることがあります(喘鳴)、呼吸困難を起こす場合もあります。

咳は1週間程度、発熱は4～5日程度続くことが多いようです。細菌と同時に感染してしまうこともあり、なかなか熱が下がらなかったり、中耳炎を起こすこともあります。

ヒトメタニューモウイルスに感染しても、多くは1週間程度で症状は治まります。しかし、一回の感染では十分な免疫が獲得できないため、繰り返し感染することがあるといわれています。年齢が上がるにつれて徐々に免疫が付き、症状は軽くなる傾向があるようです。



# 03 ヒトメタニューモ ウイルスの診断法

ヒトメタニューモウイルスの診断方法としては、鼻から採った検体（鼻腔ぬぐい液や鼻腔吸引液）やのどから採った検体（咽頭ぬぐい液）から、ウイルスそのものを直接検出する方法が最も確実とされていますが、特別な設備や機器が必要で、時間もかかります。

ウイルスの遺伝子を検出する方法も精度の高い診断法ですが、やはり特別な装置が必要なため、外来でも簡単に検査できる迅速診断キットが使われるようになってきました。

迅速診断キットの検査結果と併せて、患者の年齢や病気の経過・症状、レントゲン所見や他の検査結果などから、医師が総合的に判断します。

# 04 迅速診断キットの 有用性

ヒトメタニューモウイルス感染症の多くは風邪の症状から始まりますが、他にも同じような症状を起こすウイルスや細菌があり、見た目だけでは区別が付きません。

原因を特定することで症状の予測ができ、治療方針を決める上でも、迅速診断キットは有用とされています。

迅速診断キットにより、病気の原因を知ることができるため、家族にとっても、また医師にとっても安心につながると考えられます。



# 05 ヒトメタニューモ ウイルス感染症の治療

ヒトメタニューモウイルスに効くお薬はありません。特別な治療法はないため、症状に応じた対症療法が基本となります。

細菌の感染（二次感染）が見られる場合は、抗菌薬が処方されることがあります。また、症状に応じて、薬剤吸入などの治療が行われることもあります。

時間が経てば自然に治ることが多いですが、症状が重い場合には、入院して治療する場合があります。

まずは、呼吸困難と飲み物や食べ物を摂れなくなることによる脱水症に注意して、心配な場合には早めに医療機関を受診してください。

# 06 ヒトメタニューモ ウイルス感染症の予防

ヒトメタニューモウイルス感染症に特別な予防法はありません。感染経路はインフルエンザなどと同じですので、普段から手洗いやうがいを励行し、また十分な睡眠と栄養を摂ることが重要です。流行している時期や、家族に患者がいる場合には、マスクをすることも効果的です。

